

読書



ひとみみのる 本名 人見豊。1946年京都府生まれ。ザ・タイガース解散後、高校から学び直し、慶応大、同大学院と進む。北京大に2年間留学。中国文学特に唐詩を専攻。

1960年代末、グループサウスの頂点を極めた「ザ・タイガース」のドラマー「ビー」こと瞳みのるさん。71年の解散後は芸能界を引退して勉強し直した。長年、慶応高校で漢文を教え、日中文化交流に携わってきたが、昨年春に退職。沢田研二さんと元メンバーとの再会を機に、音楽の道に戻ろうとしている。さまざまなお話を自叙伝「ロング・グッバイのあとで」にまとめた。

タイガース解散については「わだかまりがいったいあった」。京都の仲間同士で結成し

本を語る

「ロング・グッバイのあとで」の瞳みのるさん

遠回りも近道もない

なっているだろう」と捨てぜりふを残し、関係を断った。

2年前、沢田研二さんが瞳さんの行きつけの店を訪ね回っているに耳にした。「偶然の出会いのように再会できればと思っ

て来てくれた。ちょっとシャイな彼らしい思いやりだと思っ

た」。その年、元メンバー4人が瞳さんへのメッセージを込めた曲「ロング・グッバイ」を発表。「それを聴いて、これまで固まっていたものが溶け出すような思いがしたんです」

友情を回復した5人は今、再結成に向け練習を続ける。「タイガース時代の4年間で僕の中で占める割合が、日に日に大きくなっている」。それでも、高校教諭時代の33年間に得たものも大きかった。「だからこそ新しい目で音楽を見られたし、たくさんの生徒から、いろんなことを学んだ。結局、遠回りも近道もないと思っんです」

もう事務所に縛られることはない。「昔はできなかったことをやりたい。年を取ると、食べ物やいっぱい食べられなくなり、極上のものを少し食べたいのと同じ。自分たちが納得できる音楽をやっていたい」

（「ロング・グッバイのあとで」は集英社・1260円）